

船のある風景

～マイン河～

ドイツ／ビュルツブルクを航く
リバー・ダッチェス

【シップデータ】

就航年:2003年(2012年改装)
全長:110m 全幅:11.4m
乗客:130名 クルー:41名

写真提供:(株)オーシャンドリーム

ライン・マイン・ドナウ河 東西ヨーロッパ大横断グランドクルーズ26日間

今回のクルーズは、ドナウ河、マイン河、ドナウ運河、マイン河、ドナウ河をクルーズし、ヨーロッパの東から西へ大横断する壮大なクルーズで、前半はルーマニアのジュルジュウからハンガリーの首都ブダペスト、後半はブダペストからオランダのアムステルダムまで、2つのクルーズを乗り継ぎ8カ国を巡りました。

1日目は成田空港よりアムステルダム経由で、ルーマニアの首都ブカレストへ。リバー・ダッチェスに乗船する前に、ブカレストに2泊し、市内観光を満喫。3日目にルーマニアのジュルジュウからリバー・ダッチェスに乗船。欧州ではボルガ河に次いで2番目に長い大河ドナウ河の旅が始まりました。4日目に2カ国目となるブルガリアのルセに入港。ジュルジュウの対岸にあり、黒海より内陸へ495kmほどドナウ河を遡った街です。6日目には、今回の旅のハイライトの一つ、鉄門峡谷をクルーズ。今回の旅ではアムステルダムへ向かうまでに、69の閘門を通過しますが、その中で最も見応えのある閘門のひとつが、鉄門Iの二段式閘門(黒海より949km地点)です。続けて風光明媚なカザン渓谷をクルージング。7日目には3カ国目のセルビア共和国の首都ベオグラードに入港。8日目には4カ国目となるクロアチアのヴコヴァルに入港。黒海より1333km遡ったところにありクロアチア第4の都市オシエクを観光しました。この辺りはドナウ河の河幅も広く、壮大なる自然と牧歌的な光景を眺めながら国境を越えていきます。9日目には5カ国目となる、ハンガリーの首都ブダペストに入港。ドナウ河が街の中央を流れ、自由橋近くに停泊。ゲレルトの丘よりドナウ河を挟んだブダ側とペスト側を一望、この時期のヨーロッパは21時を過ぎる頃ようやく暗くなり、ライトアップされた世界遺産の街ブダペストを船上よりご覧いただける、イルミネーションクルーズをお楽しみいただきました。クルーズ後半はブダペストの停泊から始まりブダペストの滞在3日間を存分に満喫後、11日目の夜ブダペストを出港。12日目にスロバキアを航行した際、首都のブラチスラバの街を通過。寄港しないのに街を見ることができると不思議な体験をしました。そして6カ国目となるオーストリアでは、音楽の都ウィーンに入港。ハプスブルク家の都ウィーンは見所が多いため、専用車で観光。14日目には世界遺産ヴァツハウ渓谷(黒海より2002〜2036km)をクルージング。朝6時半頃より前方右側にクレムスの街が見えてきました。日中は夏の暑さにもかかわらず、朝の川風は冬のように冷たかった。船員よりホットドリンクや毛布が配られる中、屋上サンデッキにて両岸に広がる景色をご覧いただきました。15日目には7カ国目のドイツのパスサウに入港。この街のお勧めはなんと、いつもシテファン教会のパイプオルガンコンサート。世界最大のパイプオルガンで、迫力ある演奏をお聞かせいただきました。16日目には黒海より2360kmほどドナウ河を遡ったレーゲンスブルクに入港。その夜、船は更に進むとケルハイムよりドナウ河へ別れを告げ、マイン河、ドナウ運河へと進路を変えました。マインドナウ運河を航行中、ヨーロッパの分水嶺となる海拔408m地点を通過。ここまで河登りをしてきましたが、分水嶺より河を下りマイン河へ。その後ドイツのフランクフルトを越え、22日目にはライン河へ。今クルーズのハイライトの一つ、ライン中部渓谷をクルーズ。有名なローレライの岩を通過するまで、船上のサンデッキから皆様と一緒に景色をご見学いただきました。24日目には8カ国目のオランダのアムステルダムに入港。国立美術館にてレンブラントの『夜警』やフランドル絵画などを鑑賞し、カナルポートに乗船し運河を遊覧いたしました。25日目にアムステルダムで下船して、ザンセ・スカンスを観光後帰国の途へ。

リバークルーズを終えて リバークルーズとオーシャンクルーズの大きな違いは、キャビンから見える景色です。どこまでも続く地平線と大海原を眺めながら、つろぐオーシャンクルーズとは反対に、リバークルーズは、両岸に街や教会、ぶどう畑や手付かずの大自然、そして地元の暮らしが移り行く景色として広がっています。

ユニワールド社のリバー・ダッチェスはお食事でも多彩で寄港地で積み込んだワインやビール、果物や野菜など地元の名物料理も提供。それだけではなく、朝はお粥やヘルシーフードなどもあり長旅で体調管理するのにありがたい食事を用意していました。大きな船ではありませんので、船員だけでなく他の乗客ともすぐ顔馴染みになれ安心して寛ぐことができます。河ですの大きな船の揺れもなく、酔いもありません。観光地の多くが河のすぐそばですから、長いバス移動もありません。ヨーロッパを何度か旅された方にも車や列車とは異なる景色観光のできるリバークルーズはおすすめの旅です。河の流れに身を任せてオーシャンクルーズでは経験できない思い出を、リバー・ダッチェスと共に作ってみませんか。

(文・栗本陽子／2019年度同クルーズ担当添乗員)

※18日目の東西ヨーロッパ大横断グランドクルーズは2020年6月12日〜7月7日(26日間)に実施します。